

宮古市津軽石地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 4 月 8 日掲載記事)

(1) 津軽石地区の様子

宮古市津軽石地区は、宮古湾奥深く西へ 5 km、東へ 3 km、鮭の遡上で有名な津軽石川と国道 45 号線に面した位置にあります。

震災前は世帯数 1,838、人口 5,030 名、25 行政区で構成されており、民生委員・児童委員 12 名、主任児童委員 2 名、計 14 名がこの地区を担当していました。

あの未曾有の東日本大震災が発生し、押し寄せた津波は次々に港湾施設や防潮堤、巨大な津軽石水門（高さ 8.5m）を軽々と越えて遡り、JR 山田線の線路も押し流しました。居住区域一面が水没し、57 名が犠牲となり、家屋 683 棟が全半壊しました。

震災直後から地区民児協では各委員が連携を取りながら、瓦礫をかき分け、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯を中心に安否確認を行ない、7 か所ある避難所を 3 日おきに巡回しました。発災から 3 月末までの期間、出席可能な委員で毎回会合を持ち、住管で得た情報等の共有を図りました。



被災後の水門



被災後の JR 山田線線路

(2) 現在の民児協活動

津軽石地区民児協では、地区内にある小・中・高の 4 校と連携し、「鮭の町復興クリーン大作戦」と銘打って、全児童および民生委員・児童委員の約 530 名で津波被害を受けた通学路などで合同の清掃活動を行なっています。震災前より民児協では 4 校の教員と交流会を持っており、いじめや非行などの課題があるなかで、子どもたちの交流を図るとともに、ボランティア精神を育むことができたかと考え、5 年前から鮭が上る時期に年 1 回、清掃活動を行なってきました。



クリーン大作戦

震災後、初めて行なったクリーン大作戦では、笑顔のなかにもどこか元気のない様子も見受けられました。しかし、終了後の感想発表のなかで、「学校を卒業したあとも、地域のために何か役に立つことを続けたい」という言葉もあり、委員自身も落ち込んでいるばかりでなく、前を向いていかなければならない、とあらためて考えさせられました。また、多くの人と交流することは、子どもたちにとっても前を向く良いきっかけとなり、大切なことなのだと感じました。今年 2 月には、小学校児童会に

よる感謝集会に招かれ、手作りのプレゼントが贈呈され、笑顔あふれる元気な子供たちから熱いパワーとエネルギーをもらいました。

また、民児協は地域の安全支援隊として警察署から委託を受け、小中学生の登下校の見守りや、仮設住宅の住民やひとり暮らし高齢者など、支援を必要とする方々の安否確認も含め、見廻り巡回を行なっています。仮設住宅には、これまで関わりのなかった他地区から入居している方もいるので、当初は訪問が難しいこともありました。また、狭い仮設住宅の一带では、昨日どこまで訪問したか、周囲の声を聞いていてわかる住民もいるため、「今日は来てくれなかった」と残念がられることもあります。

昨年、地区民児協名入りのユニフォームと帽子を自費で新調し、民生委員・児童委員として各行事出席の際に着用することにより、以前に増して住民に顔を覚えてもらえるようになりました。現在では、仮設住宅を訪問した際に喜んでいただけることもあり、委員になじみのなかった住民の方にも信頼していただけるようになってきたと感じています。



感謝集会でプレゼントを受け取る